

学生とシニアの対話 in 福島高等専門学校 事後アンケート結果

(2023年2月16日開催 回収票：11名)

アンケート結果取纏め：本田 一明

アンケート回答者の内訳

学生	11	男性	8	女性	3
高専4年	11	機械システム工学科			
理系	11	文系	0		
就職	8	進学	3		

□ 今回の講演や対話について伺います。該当するものをチェックして下さい。

(1) 講演の内容は満足いくものでしたか？ その理由は？



理由：

(とても満足)

- ・太陽光発電のデメリットやこれから私たちがどうしていけばいいのかの結論を出せたから。
- ・前から知りたかったことを聞くことができたから。
- ・知識を深めることができたから。 ・今学んでいることに役に立つから。
- ・とても勉強になった。 ・知りたいことを知れた。 ・分かり易かった。
- ・処理水についての理解を深めることができた。
- ・処理水についての理解が深まったため。
- ・今まで疑問に思っていたものが解決し、これからどうすればよいか学べたため。

(ある程度満足)

- ・私が持っていた知識にプラスして新しい知識や他の人の意見を聞くことができたため。

(2) 対話の内容は満足いくものでしたか？ その理由は？



理由：

(とても満足)

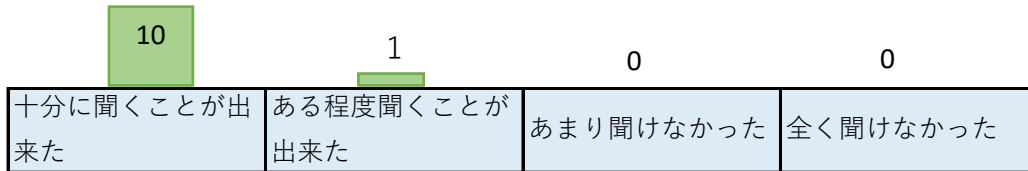
- ・対話してゆく中で、シニアの方の考え方と知らないことをたくさん教えて頂いたため。
- ・いろんな知識を得ることができた。 ・関係者の話に勝るものはない。
- ・しっかり自分の意見を出してまとめることができたから。
- ・いろいろな意見が出てきて他の人の考え方を理解できるようになったから。
- ・少人数で意見が出しやすかった。 ・OBの方の考えはとても参考になったから。

- ・質問にも分かり易く答えて頂き、とても有意義な時間となった。
- ・核融合など新しい、興味深いお話を聞けたため。

(ある程度満足)

- ・1時間というのはあっという間の時間であり、もう少し時間があれば深いところまで議論できたと思ったため。

(3) 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？

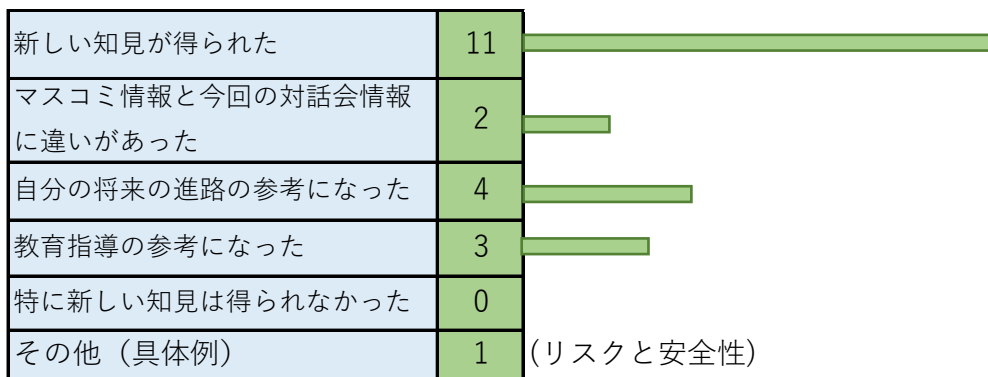


理由：

(十分に聞くことが出来た)

- ・Qに対してのAがしっかりしていたので、とても勉強になったし楽しかった。
- ・原子力の問題についてよく知れたから。
- ・質問に対して、丁寧に答えて頂いた。
- ・自分の中のエネルギーに対する疑問について聞くことができたから。
- ・丁寧に答えて頂いた。
- ・処理水の安全性を理解できた。
- ・今回の対話では原子力に精通している方と対話できたため。

(4) 今回の対話で得られたことは何ですか？（複数回答も可）



(5) 「学生とシニアの対話」の必要性についてどのように感じますか？

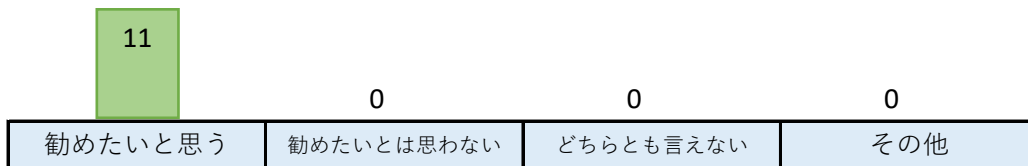


理由：

(非常にある)

- ・ 同年代だけの知見では思考に限界があり、違う年代との対話は新しい知見を開くうえで重要だと思う。
- ・ 知識がより得られる。
- ・ 新しい知見や考え方など自分の世界が広がる。

(6) 今後、機会があれば友達や後輩に対話会への参加を勧めたいと思いますか？



理由：

(勧めたいと思う)

- ・ みんなに現状、知識を知ってもらい、理解して問題を解決していきたい。
- ・ よりエネルギー問題を考えられる切っ掛けとなるから。
- ・ 自分の考えで凝り固まるよりも、他者の意見を聞くべき。
- ・ エネルギーに関する知識を広げるべきだと思うから
- ・ 勉強になるし、将来役に立つから
- ・ 簡易的な知識や正しい知識を持って欲しいため
- ・ 学年学科問わず、様々な人々で行っても良いかもしれない。
- ・ ALPS処理水に対して理解を深めることができ、不安を解消できるから。
- ・ 普段生活している上では得られないような知識などを得られるため。
- ・ 新しい知見や考え方など自分の世界が広がる。

□放射線、放射能について伺います。(複数回答も可)



□原子力発電に対して伺います。

第6次エネルギー基本計画では、原子力については、安全性の確保を大前提に必要な規模を持続的に活用していくとしつつ、可能な限り原発依存度を低減するとしています。本日の対話も踏まえ、あなたの認識は次のどれですか？

8	4	0	1	0
原子力発電の必要性を強く認識した。削減又は撤退すべきでない。	原子力発電の必要性は分かっていたので、認識は変わらなかった。	原子力発電の必要性は分かるが、やはり危ないから早期に削減又は撤退すべきだ。	原子力発電を止め、再生可能エネルギーを最大限使えばよい。	どうすればいいかわからない

理由：

(複数回答あり)

(原子力発電の必要性を強く認識した。削減又は撤退すべきでない)

- ・原子力は日本に欠かせないエネルギーの一つであるため。
- ・いつか火力のための燃料が尽きるとしたら、正しく使った原子力発電は安全だと思ったから。
- ・自分の意見を再確認し、更に意識が向上した。
- ・エネルギー不足だからこそ、再稼働すべきであると思ったから。
- ・原子力発電を再開した地域で電力料金の値上げが起こっていない事実から、削減又は撤退は妥当ではない。
- ・日本の発電方式は火力だけに頼っており、電力問題が大きくなっているから。

(原子力発電の必要性は分かっていたので、認識は変わらなかった)

- ・地球温暖化など、環境問題もあるため。
- ・見学に行ったことがあり、そこで原子力発電を学んだ。
- ・元からその考えだったが、今回の対話でより深く原因から理解し、考えを深めることができた。

(原子力発電を止め、再生可能エネルギーを最大限使えばよい。)

- ・原子力発電は小さなものから大きなエネルギーを得るために必要であるため、有用であると考え。再生可能エネルギーのみでは現段階で生活することは不可能であるため、少しは必要だと思う。

□エネルギーについて伺います。

我が国は世界と歩調を合わせ2050年に二酸化炭素の排出量を実質ゼロとするカーボンニュートラルをエネルギー政策の柱としています。一方、最近のウクライナ侵攻に対するロシアからの石炭、石油、天然ガス輸入停止制裁により価格が高騰し、エネルギー供給も懸念されています。とりわけ国土狭隘、資源小国の我が国においては再エネも限界があり電力の安定供給が懸念され、現在でも停電の危機が報じられています。このような状況を踏まえ、2050年カーボンニュートラル政策（脱炭素政策）と世界的エネルギー危機についてお考えをお聞きます。

(1) 2050年カーボンニュートラル政策は必要と思いますか？



理由：

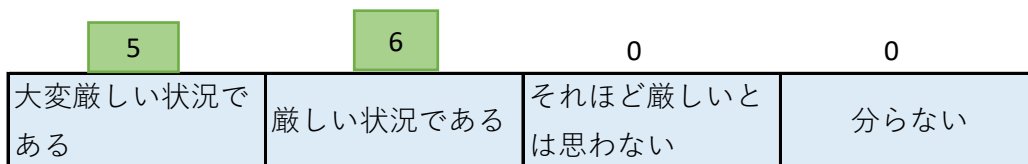
(必要であり、実現可能である)

- ・持続可能な世界を作ってゆくためにも欠かせないと思う。
- ・エネルギー価格が高騰するのは良くないと思ったから。
- ・温暖化対策に必要。
- ・地球温暖化を少しでも抑えるために、実現する可能性は低いかもしれないが、カーボンニュートラル対策は必要であると思う。

(必要であるが、実現するとは思えない)

- ・今後、戦争などが起こらないとは考えられないため。
- ・化石燃料に依存する国家は必ず存在するはずであり、たかが30年では実現不可能だと言える。
- ・目先の目標は大事であり、エネルギー問題の解決にもなるから。
- ・化石燃料は有限であるため、いずれは脱炭素は必要であると思うが、原子力の理解が得られないままだと、まだ火力などに頼ることになると思う。

(2) 世界的なエネルギー危機についてどのように認識していますか



理由：

(大変厳しい状況である)

- ・世界が協力して取り組んでいかないといけない。
- ・他国も石油がなくなっているという話を聞くから。
- ・エネルギー資源が少ないのが大きな問題としてある。
- ・ロシア・ウクライナ間の戦争に端を発するエネルギー危機による影響を実際に見てみると、常に危険な状態だと言える。
- ・ただでさえ技術が進みエネルギーが多く必要なのに、それをそれを供給する術を未だ確立できていない。

(厳しい状況である)

- ・ある国ではエネルギーが不足したりするので、厳しい状況を感じた。
- ・化石燃料の世界的減少が問題になっているから。

(3) わが国として2050年カーボンニュートラルの実現とエネルギー危機への対応はどうしたらよいとお考えですか？(複数回答も可)

再生可能エネルギーだけで可能と思う	1	
不安定な太陽光や風力には限界がある	9	
原子力を最大限活用すれば可能と思う	8	
排出される二酸化炭素の分離、活用、隔離をすれば可能と思う	3	
水素燃料などへの燃料転換により可能と思う	6	
ロシアからの燃料の代替供給元を探す必要がある	0	
ロシアからの燃料は再エネと原子力で代替できる	2	
その他	0	
わからない	0	

理由：

- ・新しい技術の開発などが期待される。
- ・エネルギーのベストミックスが大切。
- ・環境に依存する発電方法だけではなく、安定した電力供給機関、新しいパワーソースは技術の発展には必須である。
- ・太陽光や風力は天候に左右されてしまい、原子力発電は多くのエネルギーを作れるからである。

□本企画を通して全体の感想・意見などがあれば自由に書いてください。

- ・今日の対話会を通して処理水への偏見や考えなどのマイナスイメージを無くすことが出来ました。 本日はありがとうございました。

- ・エネルギー問題に関して、とても有意義な時間を過ごすことができました。今回の対話で深めた知識をこれからの生活に活かして行きたいです。ありがとうございました。
- ・大変身になった。
- ・エネルギー問題の解決には人々の理解が必要であり、表面上だけでなく原因を知る事が大切だと感じた。また、太陽光で得た余剰エネルギーを上手に活用できるようにしていきたい。
- ・有意義な対談で、是非このような会を増やすべきだと感じた。 私たちも、今度は自ら発信できるような存在になりたいと思いました。

アンケート結果の纏め

参加学生（11名）全員から回答を頂いた。

- ・「講演」（註）及び「対話」の内容は、「とても満足」10名、「ある程度満足」1名と、全員に満足して頂いた。また、「事前に聞きたいことが聞けたか」については、「十分に聞くことができた」10名、「ある程度聞くことができた」1名と全員が聞くことができたとの回答であり、これは高い満足度に寄与しているものと考えられる。
（註）今回、基調講演は行っていないが、各グループとも対話前に資料に基づきテーマにする概要説明等を行っており、アンケートではこれを講演として捉えている。
- ・「学生とシニアの対話」の必要性については、「非常にある」（11名）と全員から評価頂いた。同様に「友達や後輩の対話会参加」についても「勧めたいと思う」（10名）と全員から評価頂いた。
- ・原子力発電の必要性については、「必要性を強く認識した」が8名、「必要性は分かっていたので、認識はあまり変わらず」が4名（註：複数回答あり）であり、全員が必要性を認識していた。「原子力発電を止め、再生可能エネルギーを最大限使えばよい」との方が1名いたが、重複回答であり、原子力の必要性は認識している。
- ・2050年カーボンニュートラル（脱炭素）に対しては、「政策」は「必要であり、実現可能である」（6名）、「必要であるが、実現するとは思えない」（4名）と政策の必要性を認めている。

- ・全体を通しての感想では、「エネルギー問題に関して、とても有意義な時間を過ごすことができました。今回の対話で深めた知識をこれからの生活に活かして行きたいです。」、「有意義な対談で、是非このような会を増やすべきだと感じた。私たちも、今度は自ら発信できるような存在になりたいと思いました。」など、好評であった。
- ・また、「今日の対話会を通して処理水への偏見や考えなどのマイナスイメージを無くすことができました。」、「エネルギー問題の解決には人々の理解が必要であり、表面上だけでなく原因を知る事が大切だと感じた。太陽光で得た余剰エネルギーを上手に活用できるようにしていきたい。」など、今回の対話会を契機に更にエネルギーについて考えて頂ける感想を頂いたことは幸いである。